

難病ふれあい教室

シェーグレン症候群について

診断・治療のあれこれ

加納内科 リウマチ科・糖尿病内科クリニック
加納 克徳

平成26年10月5日

シェーグレン症候群

■ 概念 :

- ・涙腺・唾液腺を始めとする全身の外分泌腺の慢性炎症、乾燥症状を特徴とする。
- ・炎症の場所は肺、肝、腎、甲状腺、リンパ節などに波及することもある。
- ・関節リウマチ・全身性エリテマトーデスなどに合併することも多い
- ・1933年にスウェーデンの眼科医ヘンリック・シェーグレンの発表した論文にちなんでその名前がつけられた疾患

シェーグレン症候群

■ 疫学 :

年間受療患者数は2万人、現在の患者数10万人を
超えている、まれではない病気

(WA、KMさん)

男女比 1:14

発症年齢は40～60歳代

●シェーグレン症候群にみられる症状

40～60歳の女性に多い

全身症状：
微熱、倦怠感

耳下腺、顎下腺
がはれる

口がかたく
喉がかたく
虫歯が多い
味覚障害

胃酸が出ない

ふしぶしが痛む
こわばる

紫色の斑点が出る

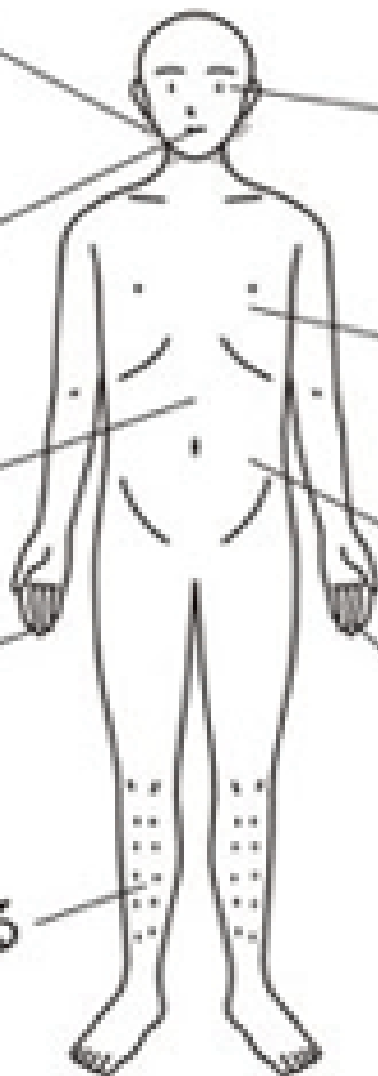
涙が出ない
目がごろごろする
ごみがいった感じ
まぶしい

気管支や肺に
炎症が起こる

尿細管の障害が起こる

指先が、白くなったり
紫色になったりする
(レイノー現象)

乾燥肌



シェーグレン症候群の合併症

- ・耳下腺炎：おたふくのように、耳下腺が腫れて痛い、熱がでる
- ・慢性甲状腺炎：甲状腺機能低下（倦怠感・寒気・皮膚乾燥など）
- ・間質性肺炎：咳、呼吸困難
- ・間質性腎炎：腎機能障害（クレアチニンが上昇）、尿が薄い、尿量が多い、夜間頻尿、水をよく飲む、低K血症（筋力低下）
- ・高ガンマグロブリン血症：下肢の紫斑・出血斑
- ・原発性胆汁性肝硬変症：肝機能障害
- ・悪性リンパ腫

外来でのシェーグレンの検査

- 貧血、白血球減少(白血病と間違われる)
- 血尿・蛋白尿
- TP(総蛋白)が高値(γ グロブリン高値を反映)
- 人間ドックで、ZTT、TTTが上昇(慢性肝炎と間違われる)
- 赤沈が高値(感染症と間違われる)
- コレステロール値が高い(甲状腺機能低下症を合併?)
- 抗SS-A抗体、抗SS-B抗体が陽性
(ステロイドで治療しても低下しない、妊娠時には注意)
- 抗核抗体陽性
- リウマチ因子陽性(関節リウマチと間違われる)

シェーグレン症候群の治療

・全身症状

微熱、全身倦怠感、関節痛など

→少量のステロイド(プレドニゾン(5mg)/日以下

・臓器障害

間質性肺炎、腎炎、神経炎などの臓器障害

→中等量のステロイド20~30mg/日を内服

→免疫抑制剤(ブレディニンなど)併用

・甲状腺機能低下症を合併

→甲状腺ホルモン製剤を補充

乾燥症状の治療について

口腔乾燥

- ・飲水：飲み過ぎに注意、夜間頻尿の原因
- ・うがい：イソジン、アズノール（口臭や虫歯予防）
- ・オーラルバランス (biotene)：保湿ジェル・リゾチーム・・・
- ・ガム：勤務中でも使用（診断書あると良い）
- ・味覚障害、亜鉛欠乏、舌痛症：プロマック、プロテカジン
- ・サリベート：人工唾液、にがい、成分の改良が必要？
- ・漢方：麦門冬湯、白虎加人参湯
- ・サリグレン、エボザック：サラジェンより作用は弱い、発汗も少ない、口腔リンス法
- ・サラジェン：作用強いが、発汗も強い、顆粒製剤・・・

口腔リンス法

(九州大学口腔外科)

- サリグレン 3カプセル(1日投与量)
→カプセルから粉を取り出し、紙の上に。
- 水150mlにサリグレンの粉を混ぜる
- 重曹(ベーキングパウダー)小さじ半分程度
を混ぜる(苦みが気になる場合)
- 1回10~20ml程度を2分間口に含み、その後
吐き出す、1日数回適宜行う。
- 発汗など副作用少ない人は、吐き出さずに、
そのまま飲んで良い
- サラジェンの口腔リンス法も検討したい。

目の乾燥症状の治療について

- ・マイティア
- ・ヒアレイン、ヒアレインミニ
- ・ジクアス
- ・ムコスタ
- ・涙点プラグ
- ・JINS モイスチャー



涙点プラグによる治療

